



まちづくりで全国表彰

平成23年7月、都市再生整備計画で優良な地区などを表彰する「まち交大賞」で、御船町が計画地区の最優秀賞となる創意工夫大賞を受賞。地域資源を活用したまちづくりアイデアが高く評価されました。



恐竜電車で御船町を宣伝

平成25年10月から翌年8月までの期間、「恐竜電車」が熊本市内を運行。恐竜博物館オープンの宣伝を目的に、熊本市電に肉食恐竜の骨格シルエットと地層をモチーフにしたデザインでラッピング装飾しました。



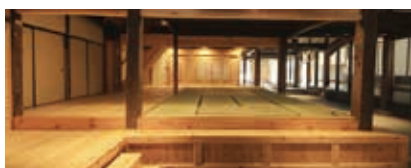
◎ふれあい広場

町内初の本格公園。敷地面積は約14,800平方メートルで、大型遊具やターザンロープ、健康遊具、噴水、ジョギングコースを整備。事業費7.1億円。



◎恐竜博物館

九州最大規模の恐竜専門の博物館。館内には、アパトサウルスなどの等身大の全身骨格標本19体や化石標本約800点を展示。事業費7億円。



◎街なかギャラリー

「白壁のまち」で繁栄した本町通りを代表する江戸後期建築の大型町家を補修。個展や文化交流、ミニコンサートなどに利用。事業費2.1億円。



◎観光交流センター

町内の観光情報を発信する施設。休憩スペースや情報検索コーナー、図書コーナーを設置。来館者を観光スポットへ案内。事業費1.9億円。



◎駐車場

役場周辺の公共施設利用者の駐車場を新設。収容台数122台。カルチャーセンターやスポーツセンターのイベントで混雑を解消。事業費6.5千万円。



◎コミュニティ道路

本町通りの道路をカラー舗装で改修。シンボルロード線を軸に、商店街を安全にまち歩きできる環境を整備。事業費6.2千万円。



歴史文化を 未来へ紡ぐ。

国の交付金を活用して、市街地形成を進めた「御船地区都市再生整備計画事業」。町は今、恐竜とシンボルロード線を軸に、歴史や文化を未来へと紡ぎながら、新たな一歩を踏み出しました。事業を完了して、進化した町並みと若者の視点から見えてくる「まちづくり」をお伝えします。



御船地区都市再生整備計画事業完了式が3月2日、町カルチャーセンターで開催され、関係者約300人が参加して市街地形成の取り組みを祝いました。

本事業は、通過都市の商店街再生、地域資源の活用を目的に、平成18年度に「御船地区整備計画」を策定しました。また、国からの交付金を活用するため、「御船地区都市再生整備計画」を平成20年度に策定。この計画で、恐竜とシンボルロード線を軸に平成22年度から4年間、▽ふれあい

式は、「感謝。そして、未来へ」をテーマに、▽オープニングセレモニー▽感謝の扉▽未来への扉▽2部構成で行われ、国や県、郡内の首長などが来賓として出席しました。

広場▽恐竜博物館▽街なかギャラリー▽観光交流センター▽駐車場▽コミュニティ道路▽広報支援活動などを順次整備しました。総事業費は22億円。

第一歩では、オープニングセレモニー後、主催者代表で山本孝二町長が「上益城郡の政治や経済、教育の中心地として栄えた

御船町は、本事業で都市再生の大きな一歩を踏み出した。町民参加のもとで活力に満ちた未来のために、地方再生モデルとなるよう頑張っていきたい」とあいさつ。感謝状贈呈では、事業に尽力した4社に、感謝状が贈られました。続いて、松永正夫建設課長が事業の目的や経過、整備概要、成果を報告しました。

第二部では、平成音楽大学の「出田敬三学長」の演奏と、若者を代表して学生3人が「私たちの未来」をテーマに意見発表。若者が思い描く町の未来に、会場からは盛んな拍手が送られていました。

御船地区都市再生整備計画事業

検索



HP

御船地区都市再生整備計画事業の詳細はホームページをご覧ください。

◎広報支援活動

町内外への情報発信を強化。ふねまるやラッピング車両、ホームページ、街灯用フラッグ、まち歩きガイドなどを制作。事業費2.6千万円。

◎モニュメント

シンボルロード線を「進화의道」と位置づけてモニュメントを整備。12種類の化石やカルカロドントサウルスなどを設置。事業費3千万円。

感謝状贈呈

事業に尽力した4社に、感謝状と記念品が贈られました（順不同、敬称略）。



↑感謝状を受け取る㈱都市環境研究所九州事務所顧問の玉田孝二さん④

㈱都市環境研究所九州事務所
玉野総合コンサルタント㈱
㈱モビーディック九州造形研究所
プランニングオフィス発見の森



◎御船地区都市再生整備計画

地域の歴史や文化、自然環境をいかした個性あるまちづくりを目的に、平成20年度に策定。創意工夫によるオーダーメイド型のまちづくりを可能とした。